総主題　虹の架け橋を見上げて
副主題　平和、寛容、多様性へ

日本福音ルーテル教会
女性会連盟

会報

26期 173号
2026年10月15日発行

わたしは雲の中に虹を置く。
これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。
創世記9章13節



神様の愛はすべての人に注がれる

日本福音ルーテルみのり教会
日本福音ルーテル岡崎教会
牧師　三浦　慎里子

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が独りも滅びないで、永遠の命を得るためである。」
（ヨハネによる福音書3章16節）

7月中旬から約2週間、アメリカ・ミネソタ州で行われた「2026年アメリカ・ワークキャンプ」に、チャプレンとして参加する貴重な機会を与えられました。日本全国から集まった中学2年生から高校3年生までの参加者16人を、4人のスタッフで引率しました。このワークキャンプは、アメリカのキリスト教系非営利団体が運営する活動のひとつで、若者たちが経済的に困窮する方々の住宅を修繕するプログラムです。教派を問わず、全米の教会から数百人もの10代の若者たちが集まり、信仰を深め、仲間や青少年リーダーとの新たな人間関係を築きながら、住宅の修理と再生に取り組みます。日本では公益財団法人JELAが窓口となり、唯一の米国外からの団体として参加しています。

外壁塗装やデッキ・車いす用スロープの建設、その他一般的な家屋の修理など、住宅修繕の種類は多岐にわたります。今年のワークキャンプのテーマは「Illuminate」。日本語では「照らす」とか「明らかにする」という意味の言葉です。参加する若者たちは、自分の世界から一歩踏み出し、困っている人々に奉仕することで、精神的に成長するだけではなく、奉仕する住民たちのもとへイエス様の希望の光をもたらすのです。300人近い参加者全員が集まる朝晩のプログラムは毎回非常に盛り上がり、参加者たちは礼拝やデボーションの他、共にゲームをしたり、歌ったり、祈ったりしながら絆を深めていました。

参加者たちはそれぞれ別々のチームに組み入れられ、キャンプの間は毎日同じチームの仲間たちと共に住宅修繕の現場へ向かいます。私たち日本人スタッフは、このチーム作業には参加せず、二手に分かれて毎日子どもたちが作業している現場を巡回し、現状の確認や英語でのコミュニケーションのサポートをしていました。その中で、ちょうどランチタイムが終わりチーム全員で輪になってデボーションをしている場面に、何度か立ち会うことができました。ある女性が自分のこれまでの人生を振り返り、数々の試練の中でいかに神様が道を備えられたかを話しておられたのが心に残っています。彼女は、大切な人たちとの別れを幾度も経験されたようです。しかし、神様がいつも良いものを備えてくださっていると信じて歩んできたと、微笑みながら語ってくださいました。彼女の心に刻まれた傷跡や欠けを通して、イエス様の光がこちらへ差し込み、私の心まで照らしてくれるような温かく優しい微笑みでした。

国や文化、置かれた環境がどれほど違っても、人が信仰に生かされる尊さは変わらない。当たり前のように思えることかもしれませんが、神様の変わらない愛が、すべての人に注がれていることを、私は日本から遠く離れた地で改めて実感し、励まされたのです。今、この瞬間にも、神様の愛は私たちひとりひとりに注がれています。ひとりでも多くの方がそのことを知り、平安の内に生きることができると良いですね。そのために、神様が私たちの教会を用いてくださいますように。